

令和 7 年度 わらしこ保育園 施設関係者評価公表シート（公開保育実施）

2026/02/27

1 わらしこ保育園の教育目標

わらしこ保育園は、クレド「わらしこから広がる子育ての輪」を土台に、子どもの最善の利益を目指した教育・保育を実践する。

- 子どもを対等な存在として尊重し、一人ひとりの発達に応じた丁寧な関わりを行う。
- 安心して過ごせる人的・物的環境を整え、主体性と自立を育む。
- 家庭との共有と共感を大切にし、子どもの育ちを共に支える。
- 地域とのつながりを活かし、開かれた園づくりを進める。
- 職員同士が学び合い、保育の質向上に継続して取り組む。

2 本年度に定めた重点的に取り組む目標

- 公開保育を通じた保育実践の可視化と改善
- 職員の振り返りの質向上（記録様式の統一）
- 安全管理・環境構成の継続的点検
- 家庭との共有・共感にもとづく連携強化

公開保育実施日：令和 8 年 2 月 2 7 日

3 評価項目の達成及び取り組み状況

※本評価は、評価者の参観日に観察できた範囲を集約したものであり、年間全活動の網羅的評価ではない。

評価項目	評価 (A~D)	短評 (1行)
環境構成	B	【年齢に応じた動線と遊びの場を確認】
保育者の関わり	A	【子どもの主体性を尊重した声かけ】
安全・衛生	A	【危険予防と衛生管理が概ね適切】
家庭連携	B	【連絡・共有体制は概ね機能】
公開保育の運営	A	【説明・参観・振り返りの流れが明確】

A：十分達成 / B：達成 / C：一部達成 / D：改善要

○ 評価の詳細

環境構成

評価：B

短評： 年齢や活動に応じた環境整備がなされ、温かみのある掲示や作品展示も印象的であった。

理由（詳細記録用）

用務員3名（パート）による環境整備・園内清掃が行き届いており、衛生環境は大変良好であるとの評価を受けた。加えて、高齢者等活躍促進関係の加算等を活用しながら、人の配置を工夫して環境維持を行っている点も参考になるとの意見があった。

園舎は増築・改築を重ねているため、空間面では制約もあるものの、子どもの製作物や写真が随所に掲示され、園全体に温かさが感じられるとの講評であった。特に、玄関ホールの大きな絵や、5歳児保育室ホールに掲示された卒園児の作品について、開放的で気持ちのよい空間づくりにつながっていると評価された。

保育者の関わり

評価：A

短評： 子どもの姿に応じた自然で丁寧な関わりが見られ、公開保育での指導も的確であった。

理由（詳細記録用）

0歳児クラスから5歳児クラスまで巡回参観を受けた中で、職員の表情が明るく、子どもとの関わりが自然であることが好意的に受け止められた。特に、男性保育士が3歳児と楽しそうに関わっている姿について、自然で温かな関わりであり、園の特色の一つとしてもよいのではないかとの感想があった。

また、公開保育の中心であった4歳児の和太鼓指導については、担任の指導が的確でテンポがよく、子どもが模倣しやすい進め方であったこと、短期間の取組にもかかわらず子どもたちがしっかり取り組んでいることが高く評価された。和太鼓を通して身だしなみや姿勢、集中のあり方など、日常の保育にもつながる学びが実践されている点も良い実践であるとの意見があった。

安全・衛生

評価：A（案）

短評： 園内清掃や環境整備が行き届き、衛生面は良好であった。

理由（詳細記録用）

用務員配置による日常的な環境整備・清掃が行われており、衛生環境はとてもよいとの評価を受けた。園舎内外を巡回する中でも、保育環境の維持に努めていることがうかがえた。

家庭連携

評価：B

短評： お便りや連絡ノート等を通じた情報共有の取組が継続されていた。

理由（詳細記録用）

家庭との連携については、コドモンの利用状況や、お便り・連絡ノートの運用方法を中心に意見交換を行った。幼児クラスでは、A4 のフォーマットを用いた連絡ノートを活用し、保護者と職員が一言程度のやり取りを行えるよう工夫していることを説明した。

意見交換の中では、情報発信をやめてしまうと保護者が園の様子を十分に把握できず、不満の蓄積につながる可能性があること、一方で発信量が多すぎると職員負担が重くなることが共有され、家庭連携においては「継続」と「負担のバランス」が重要であることを再確認した。

また、5 歳児が卒園式に向けて自分の得意なことを発表する取組について説明した際には、子どもの育ちや自信を保護者と共有する実践として、温かみのある取組であるとの評価を受けた。

公開保育の運営

評価：A

短評： 公開保育の主題が明確で、参観と意見交換が学びにつながる内容であった。

理由（詳細記録用）

今回の公開保育では、4 歳児クラスの和太鼓指導を中心に参観を受けた。活動のねらいが明確であり、単なる技術指導にとどまらず、姿勢や身だしなみ、集中して取り組む態度など、保育の中で育てたい姿につながっている点が高く評価された。

また、参観後の意見交換では、家庭との連携、情報発信、卒園に向けた育ちの支え方等にも話題が広がり、公開保育を通じて園の保育方針や実践の意図が伝わる有意義な機会となった。

3-2 公開保育の実施内容

- 対象クラス：ぞう組（4 歳児クラス）
- 実施日：令和 8 年 2 月 27 日
- 主な活動：和太鼓指導
- 参観者：認可保育園 副園長
- 参観方法：公開保育参観および園内巡回（0～5 歳児クラスの様子確認）
- 評価方法：評価項目に基づく意見聴取および講評

4 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価：A

長門石保育園副園長による参観を受け、ぞう組4歳児クラスの和太鼓指導を中心に、園内の環境整備、職員の関わり、家庭との連携の取組等について評価を受けた。環境整備や公開保育における担任の指導、子どもたちの育ちの姿が高く評価され、園として大切にしている保育の方向性が外部にも伝わる機会となった。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
家庭への情報発信の質と負担の両立	お便り・連絡ノート・ICT活用のバランスを再検討し、より継続可能な共有方法を実践する。
公開保育で得た学びの職員共有	外部評価で得た意見を職員会議等で共有し、各クラスの実践改善につなげる。
保育意図の言語化と発信	行事や日々の活動のねらいを、保護者や職員によりわかりやすく伝える工夫を行う。

6 情報の公開

本園ホームページに、施設関係者評価結果（公開保育実施を含む）を公開している。

URL：【<https://www.warashikoiyks.com/>】

公表日：令和8年3月1日

（写真掲載）個人情報および肖像権に配慮し、園の同意範囲内で公開する。

